

# 21 seiki kyouiku forum

弘前大学21世紀教育センター

第4号 2009

「教養教育としての弘前大学21世紀教育と学士課程教育」（21世紀教育センター長 木村宣美）

## 論文

- 1 ティーチング・ポートフォリオとラーニング・ポートフォリオの可能性 土持ゲーリー法一
- 11 医学部医学科臨床入門科目「PreBSL」における模擬患者による医療面接実習の教育効果 大串和久
- 17 医学部医学科3年生に対するチュートリアル導入授業—「ラージクラス・チュートリアル」による試み— 加藤博之
- 27 少年司法教育のすすめ—2007年度オムニバス講義の効果と課題 飯 考行

## 書評/新刊紹介

- 41 ドナルド・ケネディ著『大学の責務』（東信堂、2008年）（評者：土持ゲーリー法一）

## 講演会及び研究集会の記録

- 43 平成20年度FD講演会
- 43 (1)「エデュケーション・デベロップメント（ED）—カナダにおけるファカルティ・デベロップメント（FD）の範囲と意義の再定義」カナダ・ダルハウジー大学学習・教育センター長リン・テイラー（Lynn Taylor）
- 49 (2)「諸外国におけるFD/EDの現状報告—ICED、FD/EDデベロッパー、アカデミック・ポートフォリオなどを中心に—」21世紀教育センター高等教育研究開発室 土持ゲーリー法一
- 61 (3)「2008 POD Network/NCSPDカンファレンスでの成果(Achievement at 2008 POD Network/NCSPD Conference)」医学研究科病理生命科学講座 鬼島 宏
- 71 平成20年度FDワークショップ  
講義「ティーチング・フィロソフィーのステートメント—ティーチング・ドシエの核心」  
カナダ・ダルハウジー大学学習・教育センター長リン・テイラー（Lynn Taylor）
- 78 平成20年度特別教育研究経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」海外出張報告
- 78 (1)ICED(The International Consortium for Educational Development)
- 79 (2)西オーストラリア大学
- 81 (3)PODネットワーク(The Professional and Organizational Development Network in Higher Education, POD)
- 83 第5回弘前大学FDワークショップ「単位の実質化を踏まえた能動的学習の促進」  
（『21世紀教育センターニュース』より転載）
- 86 弘前大学高大連携シンポジウム「推薦入学者に対する学習支援」（『21世紀教育センターニュース』より転載）

## その他

- 89 「授業改善におけるFDワークショップの新たな方向性～学生参加型の意義～」  
（『21世紀教育センターニュース』より転載）
  - 91 他大学の授業改善への取組の紹介
  - 91 (1)秋田大学医学部保健学科の取り組み
  - 92 (2)明治大学図書館の取り組み
  - 94 国際シンポジウム「日本のFDの未来」（京都大学高等教育研究開発推進センター）
  - 98 特色GPシンポジウム「学士課程教育と一年次教育の役割」（玉川大学コア・FYE教育センター）
  - 101 特色GPシンポジウム「大学における『学びの転換』と学士課程教育の将来」（東北大学高等教育開発推進センター）
- 刊行・投稿規定・執筆要項

21

st

Century  
Education  
Forum

Vol. 4 2009

Center for 21st Century Education Hirosaki University

**FOREWORD** Norimi KIMURA

**ARTICLES**

- 1 The Possibility of Teaching and Learning Portfolio Gary H. TSUCHIMOCHI  
11 The Effectiveness of the Use of Simulated Patients on Medical Interview Education for Forth Year Medical Students  
Kazuhisa OOGUSHI and Others  
17 The Introduction of Tutorial Education for Third Year Medical Student Using "Large Class Style Tutorial"  
Hiroyuki KATO and Others  
27 Encouragement of Juvenile Justice Education: Effect and Issue of the Omnibus Lecture in 2007 Takayuki II

**BOOKREVIEW**

- 41 Donald KENNEDY, *Academic Duty* (Toshindo, 2008) (by Gary H. TSUCHIMOCHI, Hirosaki University)

**CONFERENCE / FACULTY DEVELOPMENT MINUTES**

- 43 Educational Development: Redefining the Scope and Meaning of Faculty Development by K. Lynn TAYLOR  
49 Current Activities of Faculty and Educational Developments in Overseas: Reports on the ICED, FD/ED Developers,  
and Academic Portfolio by Gary H. TSUCHIMOCHI  
61 Achievement at 2008 POD Network/NCSPD Conference by Hiroshi KIJIMA  
71 The Teaching Philosophy Statement: The Heart of Your Teaching Dossier by K. Lynn TAYLOR  
78 Reports on the Development of Faculty Activities based on Teaching Portfolios by the Subsidy from the Ministry of Education,  
2008 by Gary H. TSUCHIMOCHI  
78 1) The International Consortium for Educational Development, ICED  
79 2) University of Western Australia  
81 3) The Professional and Organizational Development Network in Higher Education, POD  
83 Promoting Active Learning based on Actualizing Credit System  
(FD Workshop for the 21st Century Education, Hirosaki University)  
86 Learning Support for Students Admitted based on Recommendation  
(FD Symposium for the 21st Century Education, Hirosaki University)

**OTHER TOPICS**

- 89 New Trends for Faculty Development Workshop for Improving Teaching: The Significant Participant of Students  
91 Other University Approaches for Teaching Improvement  
91 ① Akita University  
92 ② Meiji University  
94 International Symposium, "The Future of Faculty Development in Japan" (Kyoto University)  
98 GP Symposium, "The Role of Undergraduate Education and First Year Experience" (Tamagawa University)  
101 GP Symposium, "'Learning Change' in University and the Future of Undergraduate Education" (Tohoku University)

# 『21世紀教育フォーラム』（第4号）

## 目次

「教養教育としての弘前大学21世紀教育と学士課程教育」……………21世紀教育センター長 木村宣美

### 論文

- 1) ティーチング・ポートフォリオとラーニング・ポートフォリオの可能性……………土持ゲーリー法一 1
- 2) 医学部医学科臨床入門科目「PreBSL」における模擬患者による医療面接実習の教育効果  
……………大串和久 11
- 3) 医学部医学科3年生に対するチュートリアル導入授業—「ラージクラス・チュートリアル」による試み—  
……………加藤博之 17
- 4) 少年司法教育のすすめ—2007年度オムニバス講義の効果と課題……………飯考行 27

### 書評/新刊紹介

- 1) ドナルド・ケネディ著『大学の責務』  
(東信堂、2008年)……………土持ゲーリー法一 41

### 講演会及び研究集会の記録

- 1) 平成20年度FD講演会……………
  - (1)「エデュケーショナル・デベロップメント(ED)—カナダにおけるファカルティ・デベロップメント(FD)の範囲と意義の再定義」カナダ・ダルハウジー大学学習・教育センター長リン・テイラー(Lynn Taylor)  
……………43
  - (2)「諸外国におけるFD/EDの現状報告—ICED、FD/EDデベロッパー、アカデミック・ポートフォリオなどを中心に—」……………21世紀教育センター高等教育研究開発室 土持ゲーリー法一 49
  - (3)「2008 POD Network/NCSPD カンファレンスでの成果(Achievement at 2008 POD Network/NCSPD Conference)」……………医学研究科病理生命科学講座 鬼島 宏 61
- 2) 平成20年度FDワークショップ  
講義「ティーチング・フィロソフィーのステートメント—ティーチング・ドシエの核心」  
カナダ・ダルハウジー大学学習・教育センター長リン・テイラー(Lynn Taylor)……………71
- 3) 平成20年度特別教育研究経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」海外出張報告
  - (1)ICED(The International Consortium for Educational Development)……………78
  - (2)西オーストラリア大学……………79
  - (3)PODネットワーク(The Professional and Organizational Development Network in Higher Education, POD)……………81
- 4) 第5回弘前大学FDワークショップ「単位の実質化を踏まえた能動的学習の促進」  
(『21世紀教育センターニュース』より転載)……………83
- 5) 弘前大学高大連携シンポジウム「推薦入学者に対する学習支援」  
(『21世紀教育センターニュース』より転載)……………86

## その他

1) 「授業改善におけるFDワークショップの新たな方向性～学生参加型の意義～」 （『21世紀教育センターニュース』より転載）	89
2) 他大学の授業改善への取組の紹介	
(1)秋田大学医学部保健学科の取組	91
(2)明治大学図書館の取組	92
3) 国際シンポジウム「日本のFDの未来」 （京都大学高等教育研究開発推進センター）	94
4) 特色GPシンポジウム「学士課程教育と一年次教育の役割」 （玉川大学コア・FYE教育センター）	98
5) 特色GPシンポジウム「大学における『学びの転換』と学士課程教育の将来」 （東北大学高等教育開発推進センター）	101
<b>刊行・投稿規定・執筆要項</b>	<b>104</b>

## 『21世紀教育フォーラム』刊行及び投稿規定

1. 本『フォーラム』は、高等教育に関する実践的・学術的研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は概ね1月上旬とする。
4. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
5. 各論文の長さは図表等を含めて、400字詰め原稿用紙に換算して50枚以内とする。
6. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
7. 翻訳・書評・提言に関しては編集委員会で決める。
8. 校正は原則として著者が行い、3校までとする。
9. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
10. 本『フォーラム』に掲載される内容は、センターのホームページで公開される。

この規定は、平成17年11月から施行する。

## 『21世紀教育フォーラム』執筆要項

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。原稿は3部提出する（3部のうち2部はコピーでかまわない）。なお、ワードプロセッサ等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したフロッピーディスク等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。
3. 本文の前に要旨 (Abstract) 及びキーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また、単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入箇所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真を含む。白黒のみ）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することを避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるように明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては所定の「投稿申込書」を添付し、編集委員に確認を受ける。

## 『21世紀教育フォーラム』編集委員会

編集委員長 土持ゲーリー法一（21世紀教育センター高等教育研究開発室）  
編集委員 大高明史（教育学部）  
檜垣大助（農学生命科学部）  
猪瀬武則（教育学部）

### 編集後記

『21世紀教育フォーラム』（第4号）を発刊することができました。本号には4本の論文を寄稿してもらいました。教育・学生委員会との共催による6月のFDワークショップでは、はじめての学生参加型による授業シラバス作成のための一泊二日の研修を行い、他大学からの参加者もありました。弘前大学では、文部科学省から平成20年度特別教育研究経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」を受け、ICED国際会議、西オーストラリア大学、PODネットワーク年次大会など先進諸国におけるFD/EDの取組・実践に参加して、本学の授業改善に還元しました。11月のFD講演会では、カナダ・ダルハウジー大学学習・教育センター長リン・テイラー博士（Lynn Taylor）を招聘して、「エデュケーション・デベロップメント（ED）ーカナダにおけるファカルティ・デベロップメント（FD）の範囲と意義の再定義」と題して特別講演をしてもらい、引き続き、FDワークショップでは、「ティーチング・フィロソフィーのステートメントーティーチング・ドシエの核心」の講義の後、参加者の日本語によるティーチング・ポートフォリオ作成の研修を行いました。参加者のメンターは、カナダ・ダルハウジー大学における研修で「認定書」が授与された本学教員で、全国でもはじめての試みでした。これらの成果は、本学の「教育者総覧」に活かされるものと期待しています。

（土持ゲーリー法一）

表紙デザイン 教育学部 佐藤光輝氏

### 『21世紀教育フォーラム』第4号

発行 弘前大学21世紀教育センター  
編集 『21世紀教育フォーラム』編集委員会  
連絡先（編集委員長） 〒036-8560 青森県弘前市文京町1  
21世紀教育センター高等教育研究開発室  
土持ゲーリー法一  
電話：0172-39-3920  
E-Mail: apple45@cc.hirosaki-u.ac.jp

発行年月日 2009年3月31日  
印刷・製本 ワタナベサービス株式会社